

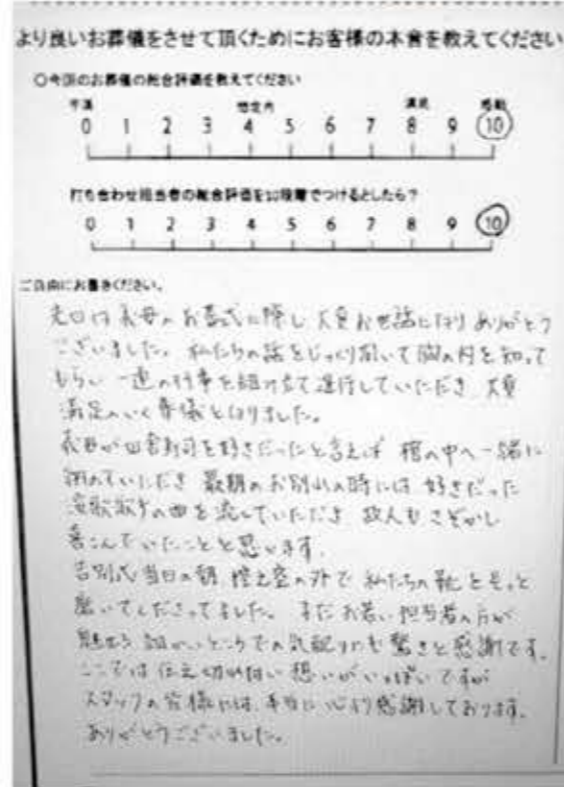
心記想伝 ~故人様と家族様を繋げる刻(とき)の共有~

大切な人を見送る時、覚悟はしていても心の中は不安と様々な迷いが錯綜した中で、私たちにお葬式のご依頼をいただくことが多くあると思います。そのうえで、具体的な打ち合わせをすぐ開始するのではなく、故人様へのご家族の想いを紐解き、そして在りし日の故人様を知ることにスタートであると考えております。

なぜならば、家族様は通常の状態でない場合もあり、ましてや日常的なことでもなく、もしかするとインターネットで調べた情報だけを頼りに、お葬式の本質(なぜお葬式をするのか)まで気持ちがたどりついていないケースもあるからです。

私たちが大切にしていることの1つに日延べの〈お客様からいただいたアンケート〉ご提案があります。1日お通夜、お葬式の日程を延ばすだけでも、心に記した想いを伝えあう時間も増え、大切な故人様のためにしてさしあげたいこともより具体的に見え始め、縁ある皆様が一緒に故人様への想いを共有し、最後の刻(とき)を、有意義なものとして胸に刻んでいただければとの思いがあります。

この度はお疲れの中にも関わらず心温まるアンケートを頂戴し、誠にありがとうございました。今後も継続し、改めて社内で共有していきたいことも丁寧に記されており、感謝で見送るお葬式をより深く理解し実現させていきたいと考えております。



〈お客様からいただいたアンケート〉

第2回 みんなが安心できる「永代供養」を考える



前回は「永代供養」について今後供養をしていただく宗教者(お寺さん)についてのお話させていただいたので、引き続き、もうひとつ大切なことについてお話します。(仏式の場合)

●当事者だけではなく家族と話し合う

永代供養について考える大切なこと・・・それは承継者含めご家族の皆さんや、後のことをお願いする方と話し合いをすることです。

例えば、お墓はあるけれど、子供に迷惑を掛けたくないとの理由でお墓を引き払って(俗にいう墓じまい)お寺へ預けたいと考える方がいます。県外在住のお子さんがある方なら尚更のようです。そして、ご家族の皆さんと話し合いすることなく当事者本人が勝手に話を進めてしまうケースがあります。



しかし、いざお子さんたちと話をしてみると、意外とお墓参りの度に帰ってくるつもりなので今後も自分が世話をしていきたい、それを楽しみに実家へ帰ってきている・・・などといったお話もよくお聞きします。場合によっては、「なんでお寺に預けたの?」「どうしてお墓を勝手に引き払ったの?」といった、迷惑を掛けないようにとよかれと思ってやったことが、逆に迷惑になってしまったといったケースも過去にありました。

まずは後のことをお願いする方と話し合いをするということが非常に重要になってきます。今あるお墓は自分が守っていく、山奥にあるので近くに引っ越したい、地元からは離れるけど県外の息子さんのところへお墓を引っ越したい、誰もお祀りしていく家族がないのでお寺さんをお願いしたい・・・など、皆さんの色々な考えが出てくると思います。こういったお話を皆さんで共有していくことが大事となります。自分一人ですることではありません。**皆で考えていく問題なのです。**



さて、以上のことから御位牌に関しては、寺院へお願いしたり自分でお祀りしていく、御骨に関しては、寺院へお願いしたり、今ある各家のお墓へ納骨する、新しくお墓を建立する、樹木葬や海への散骨を検討する・・・といったことでしょうか。

当社でも葬儀に関するご相談はもとより、宗教者様のご紹介やお墓のこと、樹木葬、散骨のご案内など多岐に渡ってご相談を承っております。いつでもお気軽にご相談下さい。

高知葬祭に 新しいスタッフが仲間入りしました!

小村 夏未 (こむら なつみ)

出身地：高知県
趣味：料理

最近は揚げ物にはまっています!

カレーパンやコロケのように手間のかかるものを作るのが楽しくて!

食卓に多くあがるのは、残り物おかずリメイクの春巻きかなと思います。

まだ入社して日が浅く、至らない部分が多々ありますが、精いっぱい皆様のお葬儀のお手伝いをさせていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします!



こむら

※神式では御位牌ではなく「霊璽」というものがありますので、基本的に神式の方々も同じような考え方で構いません。高知市でも霊璽や御骨を永代供養できる神社が増えてきております。



はたけなか